

地方創生 S D G s 官民連携プラットフォーム 分科会実施計画書 2021 年度

提案者名	株式会社 文化資本創研
提案テーマ名	日本のスマートシティを考える

1. 分科会の概要

① 分科会の目的	長い時間をかけて育まれてきた地域文化。 産学官連携により、『日本固有の地域財産』×『最新のテクノロジー』を融合した“日本らしい”スマートシティの要素を協議し、具体化を目指す
② 分科会で解決したい課題	・スーパーシティ等の統括的インフラの充実による“場”の豊かさに加え、地域に連綿と続く文化により、より豊かで人間らしい暮らしを実現する“事”の創造 ・文化を視点に地域の在り方・強みを再考し、新しい日本の都市創造への礎とする。
③ 分科会のもとで行う具体的活動等	活動概要：『日本固有の地域財産』×『最新のテクノロジー』の両面を学び、“日本らしい”シティの在り方を協議し、モデルシティの創造を図る。
活動 1： 残すべき地域文化の研究	実施内容：地域コミュニティが残る集落、転入超過で若者が活躍している地域の担当者へのインタビュー・バーチャルツアーにより、忘れられかけている日本のルーツにスポットを当て、残すべき日本の固有財産を見つめ直す。 年度内の実施回数（予定）：年 1～2 回 実施場所：京都及び現地（Web 会議を併用）
活動 2： 海外・日本のスマートシティ最先端研究	実施内容：スマートシティ構想担当者・都市研究の専門家を招聘して、海外・日本の最先端のスマートシティ事例を学び、その利点を取り入れて新しい価値観へと昇華させるための議論へと結びつける。 年度内の実施回数（予定）：2 回 実施場所：京都又は現地（Web 会議を併用）
活動 3： あるべき日本のシティの討議	実施内容：人口推移や産業別就労状況、転入転出など、現在日本各地域が抱えている問題の抽出とその具体的な解決策を知る。その上で、最先端のデザイン経営・テクノロジーの Specialist にも意見を聞きながら、参加者全員で討議します。 年度内の実施回数（予定）：年 2 回 実施場所：京都（Web 会議を併用）
④ 期待される成果（アウトプット）	循環型社会と地方活性化を融合したモデルシティの創造
⑤ 資金・物資計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交通費・通信費・会場費：当社負担 ・ イベント実施時交通費・通信費・参加料：参加者負担 ・ 講師及び取材先謝礼：原則当社負担、必要に応じて参加者負担の場合もある。

2. 参加メンバーへの期待

① 参加してほしいメンバー	<p>“日本らしい”シティの在り方に興味がある以下の団体及び個人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自治体（都道府県、市町村） ・ 企業（特に、製造業、建築設計業、サービス業（IT 含む）、伝統・観光に関わる業種など） ・ NPO や NGO ・ 大学
② 想定しているメンバー数	10 団体～30 団体程度
③ メンバーへの期待	地域性や独自文化の再発見及び再認識、それらからくるクリエイティビティ

3. 実施スケジュール

	4・5 月	6・7月	8・9月	10・11 月	12・1月	2・3月	4月以降
全体			▲ 総会				▲ 次年度総会 成果報告
活動領域 1： 残すべき地域文化の研究			▲	▲			
		研究会(年 1～2 回、京都又は現地及び Web 会議で開催予定)					
活動領域 2： 海外・日本のスマートシティ最先端研究			▲		▲		
		研究会(年 2 回、京都又は現地及び Web 会議で開催予定)					
活動領域 3： あるべき日本のシティの討議						▲	▲
		討議((年 2 回、京都及び Web 会議で開催予定)					
その他		—————				▲	
		年次活動報告書の提出 (2月末)					

4. その他特記事項

① その他特記事項	
-----------	--

5. 連絡窓口

団体名	株式会社 文化資本創研
部署	
担当者名	小林 孝嗣
電話番号	050-3700-6901
メールアドレス	post@bunkashihon.jp